

平成 21 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
1 - 1	防災ネットワークエリアマップ作成事業	新規	平成 21 年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	地域振興課		対象者	自主防災組織を中心とした 中原区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ( )	関連事業局 ・事業内容	総務局危機管理室			
目的及び内容	<p>防災ネットワークエリアマップ(以下「当マップ」という。)は、平成 10 年に作成して以来見直しを行っていなかった。そのため、経年変化や避難所エリアの変更などによる地図情報が反映されておらず、実際の防災活動に役立たせるため、新たな情報を反映した当マップの作成を目的として区民である自主防災組織の意見をふまえてこの事業を行う。</p> <p>また、新たに平成 19 年度 12 月より開始された災害時要援護者避難支援制度への取組みとして、要援護者情報を書き込める地図を作成するものである。</p>					
予算額	1,313,000 (円)	決算額	928,200 (円)	不用額	384,800 (円)	
不用の理由	指名競争入札の結果、入札額が当初予算額を大幅に下回ったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		<p>当マップは、新たな情報を反映し、災害時要援護者避難支援制度における登録情報を書き込めるものとして作成した。</p> <p>また、自主防災組織の意見を反映させた上で全 8 中学校区ごとに当マップを 1,000 部作成し、中原区自主防災組織の方を中心に配布を行い、訓練等に役立ててもらうとともに一般向けに中原区のホームページに掲載し、広く周知を図った。</p> <p>このことにより、地域での防災情報としての啓発と活用が行われ、地域防災力の向上につながった。</p>			
	 (作成したマップ【8種類】)		実施時期 (開催日/回数等)	平成 22 年 3 月	参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>近年各地で発生している大地震により、防災に対する意識が高まっている中で防災情報に対するニーズも高まっている。</p> <p>そうした状況で、地図情報を新たに更新し、市で作成しているものより詳細な区版として市民へ周知することは、有効な防災情報として活用されることから災害に備える上で重要なものとなった。</p> <p>なお、当マップの作成にあたり、防災ネットワーク連絡会議等での自主防災組織の意見を反映させた。また、新たな防災情報の追加や要援護者情報などを書き込めるものにする等、実際に役立つものを意識して作成した。</p> <p>今後は状況を見ながら、定期的に地図情報を更新する必要がある。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	毎年地図情報を更新する必要性は感じないが、状況を見ながら定期的に地図情報等を更新する必要がある。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
1-2	中原区ガイドブック(安心ブック)作成事業	継続	H17	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	区の概要や公共施設、医療機関、防災拠点などを掲載した「中原区ガイドブック」を区民課窓口で転入者に配布する事により、安全安心のまちづくりの推進を図ることができる。 中原区ガイドブックを2万5千部作成し、区民課窓口をはじめとする、区役所各窓口で配布する。					
予算額	2,666,000(円)	決算額	2,073,750(円)	不用額	592,650(円)	
不用の理由	入札の結果、入札額が当初予算額を大幅に下回ったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (作成したガイドブック)		中原区ガイドブックを2万5千部作成した。区民意見を反映し、大判地図を新たに作成し、ブックに挟み込んだ。			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年3月	参加 人数等			

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)  転入者などへ、区の概要や、公共施設、医療機関、防災拠点を案内する、ガイドブックを作成し、配布する事は評価できる。また、詳細地図に加え、1枚もの大判地図を挟み込む事により利便性の向上を図った。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	より見やすく、使いやすいガイドブックとする為、形状を見直し、継続する。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2 - 1	橋渡しによる地域福祉の活性化事業	継続	19年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	中原区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ( )	関連事業局 ・事業内容	健康福祉局			
目的及び内容	『福祉の心、人と人の橋渡しで、支え合える地域づくり』を基本理念とし、平成20年度から3か年計画である『中原区地域福祉計画』を推進する上で重点多岐な取り組みと位置付けている。これらの事業を推進することで、同計画の基本目標である『1 福祉活動やボランティア活動の機会をつくる』『2 福祉活動やボランティア活動のいっそうの活性化・充実を図る』『3 区民、福祉活動団体、行政等が情報を共有できるしくみをつくる』『4 地域におけるネットワークづくりを推進する』の実現を目指す。					
予算額	2,213,000 (円)	決算額	1,766,843 (円)	不用額	446,157 (円)	
不用の理由	当初見積額を下回る金額で契約ができたため					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (高齢者向けのホームページ『ますます元気なかはら』)		まちなか講座：衛生課主催の講習会参加者及び川崎中原工場協会の加盟団体を対象に講座を計7回開催し、320名が参加した。 地域福祉講座：福祉事業、ボランティア養成事業を公募し、5事業を選定し、事業委託した。 小杉駅周辺への啓発活動： 啓発用リーフレットの配布(10月)ミッドスカイタワー全戸配布及び周辺マンション受付に配布(約1,000部)。 民生委員児童委員活動に関心があるとして、1月30日に「エリアマネジメント連絡会議」で説明を行った。 横須賀線武蔵小杉駅の『地域交流促進イベント』会場において、地域福祉啓発用品約2,000枚の配布。 NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントやまちづくり局小杉整備推進室及び庁内関係課との連携を図った。			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成21年度中	参加 人数等	上記のとおり		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>まちなか講座は、企業向けに働きかけを行ったが、昨年に引き続き実施のため応募企業が少なかった。 地域福祉講座は、5事業の募集に対し、6事業の応募があった。地域のニーズに添った支援が行えた。 高齢者向けのホームページ『ますます元気なかはら』を22年4月に立ち上げた。 武蔵小杉駅周辺地域等の啓発活動は、新しく入居が始まったマンションへ福祉・医療・保健に関するリーフレットを配布した。その結果、『民生委員・児童委員活動について』の説明の機会を持つことができた。今後の多面的な働きかけを行っていくための足がかりとなった。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	22年度は地域福祉計画の見直し年度である。地域福祉の活性化に向け、より一層の普及・啓発を進めていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2 - 2	なかはら福祉健康まつり	継続	平成11年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	なかはら福祉健康まつり実行委員会		対象者	中原区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容	なし			
目的及び内容	誰もが健康で生き生き暮らせる地域福祉社会を目指し、区民参加型イベントを実施し福祉・健康に対する区民の知識や理解を深める機会を創出する事を目的として実施する 参加型イベント、活動発表等行なうことにより、福祉・健康関係の各参加団体が、お互いに交流を図り、親睦を深め、地域のネットワークの拡大を図る。					
予算額	1,200,000(円)	決算額	1,200,000(円)	不用額	0(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		高齢者、障害者、手話サークル、健康相談など福祉、健康に関する地域活動をしている55団体が参加し、日頃行っている活動の発表や展示を行なった。また、福祉健康体験ウォークラリー、リズム体操、減塩試食コーナーなど市民が直接体験できる様々なイベント等を取り入れ、福祉や健康に関する学びや理解を深めるとともに、区民や各福祉団体間の交流を図ることができた。			
	(福祉健康まつりで実施した音楽会)		実施時期 (開催日/回数等)	平成21年11月21日	参加 人数等	1,800人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
区民参加型のイベントとして、地域で活動している福祉や健康に関する団体等が主体となって実施しているものである。福祉等についての市民の関心はまだ高いものとは言えず、その活動について広く市民に知ってもらうことにより、健康づくりや福祉に関心を持ち、理解を深めてもらう機会とすることができた。また、障害者、高齢者、健康づくりに関わる様々な団体が、福祉健康まつりを通し、団体間の交流を図る機会となっており、地域活動のネットワークづくりに貢献することができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成22年3月に行った実行委員会(反省会)では、各団体からのアンケート結果を元に、次回に向け、修正するところ、新たに準備が必要なところなど、意見交換がなされた。それを元に、平成22年度の実行委員会では、改善の上継続していく方向である。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2-3	脳・体はつつ俱樂部事業	継続	平成19年	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	認知症予防に取り組む高齢者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容	健康福祉局 介護予防事業		
目的及び内容	認知症予防プログラムを実施し、活動を通して認知症や閉じこもりを防止し、地域のつながりを持ち生き生きとした生活を過ごすために実施する。また、終了後も継続した活動が行えるように自主グループ化を目指す。				
予算額	318,000円	決算額	273,243円	不用額	44,757(円)
不用の理由	サポーター養成が順調に進み、講師謝礼が予定額を下回ったため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		認知症予防のプログラムとして、回想法と有酸素運動を取り入れ実施した。参加前後に、閉じこもりチェックアンケート、基本チェックリスト、体力測定を実施した。結果として、外出の状況や心の状況に維持・改善がみられた。終了後も、サポーターとともに会を継続して介護予防に取り組んでおり、地域資源の場になっている。支えるサポーターへ学習会を実施し、会の継続支援も実施した。		
	(参加者に配布した出席簿)		実施時期 (開催日/回数等)	平成21年9月 から合計14回	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
参加者の多くは、運動機能や社会機能の維持・向上がみられた。また、会に参加し、回想法を行う中で心理的变化として前向きになった者も多く、介護予防としての効果はあった。サポーターと会の運営について話し合いを重ね、サポーターが積極的に会の運営に関わり、終了後もサポーターを中心に会の活動を行い、社会資源の1つになっている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	今後は協働推進事業ではなく、介護予防事業として実施していき、脳・体はつつ俱樂部の地域への推進は今後も継続して行う。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-1	働いている妊婦への支援事業	継続	平成20年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	かわさき助産師ネットワーク SUN <sup>2</sup>		対象者	働きながら子育てをする 予定の妊婦とパートナー		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	<p>&lt;目的&gt; 就労女性の増加に伴い、仕事と家庭生活の両立に関心が高まると同時に、不安を抱える人も増えていることから、対象者の不安を軽減し心の準備ができるようにする。そして夫婦が協力し合って仕事と子育てや家庭生活を営むワークライフバランスのイメージが持てるようにする。</p> <p>&lt;内容&gt; 妊娠・出産・子育ての知恵(講話) 子育て支援情報紹介 先輩ママ・パパとの交流 保育施設の紹介や認可保育園入所案内 体験コーナー(赤ちゃんお着替え・スリング・妊婦体験等)</p>					
予算額	221,000(円)	決算額	221,000(円)	不用額	0(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(先輩ママ・パパの交流)</p>		<p>年度内4回、土曜日に区役所五階会議室において実施した。4回の参加妊婦の合計169人、パートナー145人、先輩親子等35人であった。</p> <p>参加者の関心事は 保育園について 出産・育児について 先輩ママ・パパの体験談が多かった。</p> <p>内容についてはどの項目も「大変良い」「良い」が8割を占め、二人で参加できて良かった、参考になった、充実していたなど概ね好評であった。当日の運営は、かわさき助産師ネットワーク SUN<sup>2</sup> のメンバーが中心となり、保健福祉センター、関東労災病院看護職が協力し円滑に実施できた。</p>			
			実施時期 (開催日/回数等)	H21.6/26 9/26 12/12 H23.3/13	参加 人数等	379人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日開催により、参加者の86%がパートナーとともに参加し、2人で出産後の生活への心構えができた満足感が高かった。また参加者の68%が平日実施の両親学級に参加していなかったことから、平日の両親学級の補完ができた。</li> <li>・毎回男女とも保育施設についての関心が高く、待機児数や保育園に入所できるかどうか等、切実なニーズがあった。</li> <li>・乳幼児健診に来所した人に「先輩ママ・パパ」としての参加を募り協力を得た。先輩に保育園のことや日常生活の様子を聞き、これからの生活へのイメージ作りに役立っていた。また先輩ママ・パパにとっても楽しく参加でき市民参加型の事業として展開できた。2年目となり3者の協働事業としてチームワーク良く運営実施した。</li> </ul>

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>昨年の反省を活かし、先輩ママ・パパの参加者数を増やし、参加者が車座になって体験談を聞き交流できたことは参加者のニーズに合っていた。各内容の時間配分を再検討し、参加者同士の交流、先輩ママ・パパ同士の交流も行い、継続して参加してもらえる仕組みを作っていく。</p>	B

区民会議からの主な意見

--

平成 21 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3 - 2	多胎児育児支援事業	継続	平成 18 年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課 児童・家庭支援担当 ふたごちゃんフェスタ実行委員会	対象者	中原区在住の多胎児を持つ親 及び多胎児育児に関心のある区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ( )	関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	<p>多胎児の育児は、精神的・身体的・経済的負担が大きく、虐待のリスクが高いと言われている。また妊娠期から情報が少なく育児も孤立しやすい。中原区は多胎児の出生が年間約 30 組と多いことから、ボランティアと協働し、多胎児家族が交流できる場を定着させ、多胎児家族の相互支援を目指すために以下の支援を行う。</p> <p>交流会の開催、多胎児育児の情報提供としてピーナッツ通信を発行、ボランティアグループ「ピーナッツ」の定例会を毎月開催、ふたごちゃんフェスタの開催、ボランティアグループ強化のため研修会を実施</p>			
予算額	357,000 (円)	決算額	247,934 (円)	不用額 109,066 (円)
不用の理由	新型インフルエンザ流行により、ふたごちゃんフェスタの開催を中止としたため。			
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	<p>区内 3 会場での交流会の実施</p> <p>エポックなかはら 9月18日 4組 妊婦3人(25人)</p> <p>下沼部町内会館 10月16日 4組(20人)</p> <p>国際交流センター H22年2月19日 4組 妊婦2人(32人)</p> <p>ピーナッツ通信 135 世帯に郵送。</p> <p>ピーナッツの活動支援及び の企画・運営 (通年 参加者実数 13 名 延べ 78 名)</p> <p>12月5日(土)開催予定であったふたごちゃんフェスタは、新型インフルエンザ流行による感染拡大予防のため中止と決定。 多胎児サポートネットワーク代表による研修会実施。</p>		
		実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等
	(エポックなかはら交流会)			

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>交流会では、先輩双子ママが進行を行い、ピアサポートの機能をとることが出来た。多胎児の保護者のより身近な会場で開催したこともあり、今まで参加できなかった母子の参加が認められ、また妊婦も含めた交流が行えた。</p> <p>ふたごちゃんフェスタは参加者の多くが乳幼児や妊婦等、感染ハイリスクであることから、健康と安全を考え実行委員会で中止と決定し、区役所ホームページ及び 135 世帯に郵送で周知した。</p> <p>孤立しやすい多胎児家族に向け、ボランティアグループの紹介とともに交流会・フェスタの様子を伝える「ピーナッツ通信」を発行。保健福祉センターに来所できない多胎児家族にも支援があることを PR できた。研修会を開催したことで、ボランティアグループが支援を継続する意義が明確になり、ボランティアの士気が高まった。</p>

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>ボランティアを中心に交流会を実施、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。また、参加できない家族へ活動の PR を行い、参加意欲を促し、エンパワメントの向上を目指す。</p>	B

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-3	乳幼児ふれあい事業	継続	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	乳幼児健診来所の親子		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	中原区は大規模開発等により、乳幼児数、転入者が増加しており、地域の子育て情報に対する需要が高い。また、乳幼児健診の受診者数も増加している。乳幼児健診の来所の機会、待ち時間を利用し、子育て情報の提供するための子育てアドバイザーの設置、親子ふれあいを促進し健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすためのにこにこコーナーを開設する。また、子育てに理解のある子育てボランティアとともに事業を実施する。					
予算額	1,015,000(円)	決算額	1,000,433(円)	不用額	14,567(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		健診での保健所の来所時の健診の待ち時間の機会を利用しての専門職による子育て情報や、地域の子育て情報の提供を行うことができた。また、健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすための保育士による遊びのスペースであるにこにこコーナーや、ボランティアによる見守りがあることで健診を安心して受けてもらう環境づくりをすることができた。ほとんどの親子が利用し、専門職による親子遊びの方法についてのヒントが得られた等の評価が参加者より得られた。			
	(ボランティアによる見守り支援)		実施時期 (開催日/回数等)	平成21年度通年	参加 人数等	年間108回実施

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
健診の待ち時間を利用して、専門職による子育て相談や情報提供、ふれあい遊びなどを提供すること、更に健診の機会を有効に活用することができ、楽しく安全に健診受けるために重要で必要不可欠な場となっている。ボランティアの存在も地域の子育て支援を行うためにも重要である。今後も、引き続き乳幼児の増加、転入者の増加は考えられるため、優先的に取り組むべき事業である。

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	健診時に必要で有効な事業となっている。今後も、引き続き、乳幼児の増加、転入者の増加が考えられるため、子育て情報に対する需要も引き続き高く、健診者の受診者数の増加も見込まれるため継続実施し、内容の検討等を行っていく。	B

区民会議からの主な意見

--

平成 2 1 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3 - 4	中原区子育て・子ども支援ネットワーク事業	継続	平成 18 年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	子育てネットワーク 子ども支援ネットワーク なかはら子ども未来フェスタ実行委員会		対象者	区内の子どもと保護者、子どもに関わる関係機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ( )		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	<p>地域全体で子どもが抱えている課題を共有し、課題解決にむけた支援をおこなうため、就学前の子育てネットワーク会議を年 4 回、就学児以上の子ども支援ネットワーク会議を年 3 回開催した。</p> <p>子育てネットワークでは、情報交換を繰り返し、「子ネット通信」の発行などタイムリーな情報の発信を行い、子育て自主グループ支援に関係機関と展開し、マタニティ&amp;ファミリーコンサートなどの実施を協働して取り組んだ。</p> <p>子ども支援ネットワークでは、地域の素敵な大人と連携した「中原区子どものあり方・生き方プロジェクト」や「中原区スクールプロジェクト」の実施、子どもネットワークのホームページ「なかはらっこ」による情報発信に取り組んだ。</p> <p>区の子どもに関する情報交流を目的とした「なかはら子ども未来フェスタ」の実施に向け、準備を行なった。</p>					
予算額	3,480,000(円)	決算額	3,021,219(円)	不用額	458,781(円)	
不用の理由	新型インフルエンザ流行の影響により、子ども未来フェスタ及びマタニティ&ファミリーコンサート(12月分)の開催を中止したため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		<p>子育てネットワークでは、部会活動として年 12 回の会議を開き、隔月で「子ネット通信」を 8,000 部 / 回発行した。また、自主グループ支援部会にて子育て支援の冊子を作成発行(2,000 部)し、区民・関係者へ配布した。また、コンサートは 7 月に実施し、730 名の参加を得た。</p> <p>子ども支援ネットワークでは、3 回の会議の中で、「あり方・生き方プロジェクト」で地域の素敵な大人に出会う活動を検討し、その一環として、3 つの小学校で、プロのダンサーによるワークショップを開き、ダンスでコミュニケーションの素晴らしさを体験する機会を持った。「スクールプロジェクト」では、小学生から高校生が数ヶ月をかけて集い学びあい、成果を区民へ広げていった。</p> <p>また、新型インフルエンザにより開催は中止したが、2 つのネットワークをつなぐための子ども未来フェスタを開催するため、実行委員会や参加団体説明会等を実施し、交流を行った。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	コンサート(7/3)		参加 人数等	約 730 人	

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>地域で活動している自主グループや、ボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などがネットワークとして集まり、地域の子育てや、子どもを支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体の活動状況等の情報交流や活動を実施し、連携を進めることが出来た。また、「子ども未来フェスタ」や「マタニティ&amp;ファミリーコンサート(12月分)」については、新型インフルエンザ流行により、乳幼児期の感染蔓延防止のため中止せざるを得なかったが、実行委員会等を通じ、それぞれのネットワークの参加者同士の交流を図りながら、ネットワークの役割を果たせた。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	子ども支援に関する 2 つのネットワークの特性を生かしながら、参加団体等の活動の実践を積み上げ、課題を共有していくことで、区民と協働した実践的なネットワーク活動の取組みを引き続き推進していく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-5	中原区子育て支援推進事業	継続	平成15年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会	対象者	区内在住の0歳から3歳位までの乳幼児とその保護者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者の孤立化や、育児不安の軽減をはかり、ひいては虐待予防につながっていけるように、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などの地域住民が主体となり、区内18箇所ですべて「子育てサロン」を開催し、保護者への支援を行う。			

予算額	2,100,000(円)	決算額	2,080,828(円)	不用額	19,172(円)
-----	--------------	-----	--------------	-----	-----------

不用の理由	
-------	--

結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	<p>中原区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会が主体となった区内14箇所と、今年度から協働事業として支援している自主サロン4箇所も加えた区内18箇所ですべて、月1回の子育てサロンを開催している。</p> <p>子育てサロン開催の他、各地区では、見守り活動や、中学生などのボランティア体験の受入れや、小学校との協働で命の授業など、その活動は地域の世代間交流を進める活動にもつながっている。子育てサロンスタッフ研修として、“サロンでの防災について”“親子遊びについて”を開催し、サロン開催会場の見直しやスタッフのスキルアップに繋がった。</p>			
		実施時期 (開催日/回数等)	サロンを月1回 延べ182回	参加 人数等	10,488人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>子育て中の転入者や出生数の多い中原区では、乳幼児を持つ保護者が周囲に知り合いがいないため、不安を抱えていることが多く、子育て中の親同士や地域の人々と交流できる「子育てサロン」に対するニーズは大きいものがある。</p> <p>「子育てサロン」に参加することにより、子育てに関する情報交換が出来、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりが出来ることにより、孤立化による育児不安の軽減につながっている。</p> <p>平成21年度は、新型インフルエンザ流行の影響により、5会場をのぞき12月から2月の間に開催を中止としたサロンがあり、開催数と、利用者が前年度を下回る状況となった。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	区内では地域毎に地域のボランティアが主体的に実施しているサロン活動が定着しており、転入してきた親子や、初めて子育てをしている親子が集える場所として有効に機能している。サロンに参加しにくい親子への支援などを付加するよう引き続き取り組んでいく必要がある。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-6	子どもの発達支援事業	継続	平成20年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こども支援室		対象者	区内在住の発達に支援を必要とする幼児・児童の保護者		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	その他( )	関連事業局 ・事業内容	
目的及び内容	子どもの発達に何らかの課題をもつ保護者に対して、発達課題の理解を深めるための情報提供を行い、子どもへの対応スキルの向上を目指すと共に、保護者同士の情報交流を通して保護者の相互支援を推進する。また、これらの支援活動の報告と検討を行うことで、区内の子どもの発達に関わる諸課題の把握及び、子どもの発達支援活動の向上を図る。 <内容> 関連機関による「発達支援検討委員会」の開催 ・講演会や保護者ミーティングの実施					
予算額	1,216,000(円)	決算額	1,153,950(円)	不用額	62,050(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		「発達支援検討会」は、発達相談支援センター・NPO法人・学校関係者・保護者代表などで組織し、本事業の検討や区内で支援が必要な子どもの現状や課題について話し合った。 また、各機関の取り組みを「リーフレット」としてまとめ、関係機関に配布した。保護者支援としての「保護者ミーティング」は、“就学前”“就学直前”“就学後”の各々の保護者を対象に実施した。不安や悩みを抱える保護者がそれぞれの思いを伝え合うことで保護者自身の不安を軽減することができた。特に就園前のミーティングの中から継続した支援の要望が出され、今後の検討課題となった。			
			実施時期 (開催日/回数等)	発達支援検討会/4回 講演会/3回 ミーティング/計27回	参加 人数等	検討会：20名 保護者延べ：330名

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)  発達支援検討会を通し、参加した各機関のシステムや事業について互いに知ることができ、現状や課題について共有することができた。また、それぞれが行っている支援をリーフレットにまとめたことで、支援者だけでなく保護者との相談場面でも今後活用できることを確認した。 保護者ミーティングでは、保護者が我が子の発達の理解を深めたり必要な手立てについて知ることができた。また、互いに話し合うことでそれぞれに抱えている不安や悩みを共有でき、課題を解決するヒントを得る場ともなった。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	年長児保護者への支援は、幼・保・小の連携においても重要であることが確認され、今後も継続していくことが必要である。 また、就園後の幼児についても、保護者ミーティングの実施など保護者支援の拡充が必要である。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3 - 7	子育て力向上事業	新規	H21	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	職員（子育て事業従事職員）		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	関連事業局	その他（ ）	
目的及び内容	<p>乳幼児健診、訪問など子育て支援事業において、あらゆる相談対応を行なっている職員を対象に、体系的にまとめられた子育てマニュアルである「前向き子育てプログラム（トリプルP）」を学習することで、より一層の指導技術の向上につなげることを目的とする。これにより、子育てに悩む親の心的状況改善を図るための対応力向上が見込まれ、区民サービスの向上につなげる。</p> <p>実施内容は、外部講師による「子育て力向上事業研修会」。トリプルPの専用教材を購入し、研修を受講するとともに、教材を今後の相談業務の際に活用するものとする。</p>					
予算額	164,000(円)	決算額	163,950(円)	不用額	50(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(研修で使用した資料)</p>		<p>「前向き子育てプログラム（トリプルP）」の基本理念の学習と相談業務への活用」というサブタイトルで、厚生労働省国立保健医療科学院の加藤 則子部長を講師に、半日の研修会を実施。</p> <p>中原区職員に加えて、他区職員も受講（5名）したことで、中原区のみならず、より広範な範囲で、子育て相談対応職員の指導技術向上への機会となった。</p> <p>当日欠席した職員にも教材を配布することで、今後の相談業務に活用していく。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年3月15日 / 1回	参加 人数等	約20名		

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>武蔵小杉再開発による大規模マンション完成にともない、大幅な人口増加、特に子育て世代の転入による、子育て支援業務へのニーズ・対応件数が増加している。</p> <p>それに加えて、マンション地域での地域自治が遅れていること等による子育て世帯の孤立化等、ますます複雑化する子育てへの相談対応力が、早急に求められている。</p> <p>これに対し、対応職員の能力向上につながる当研修会の実施は、区民ニーズを捉えた、緊急で積極的な事業実施として一定の成果を挙げられたと考える。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する		

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 1	区民の手で花いっぱい中原事業	継続	平成21年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	花クラブ実行委員会		対象者	区 民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	関連事業局	事業内容	
その他( )						
目的及び内容	<p>区民が主体となった「花による潤いのあるまちづくり」のために、区民の中から公募で組織された花クラブ実行委員会が、公用地である武蔵小杉駅周辺、中原図書館、中原区役所正面、中原区役所周辺、武蔵中原駅周辺の5箇所に年2回花の植栽と日々の管理作業を行う。</p> <p>花に触れる体験を通じて、景観や環境に対する理解を進めるため、一般区民を募集して、実行委員会が講師となり、区役所正面玄関前の花壇の花植え体験を行う。</p>					
予算額	2,152,000(円)	決算額	1,580,692(円)	不用額	571,308(円)	
不用の理由	各委員の尽力により、植栽のための花を安価に購入することができたため。					
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>三角公園班の花の植替え作業</p>		<p>暑い日も寒い日も、花壇及び樽ポットへの水遣りを含めた日々の維持管理作業を欠かさず行い、年2回の植栽時にはデザインから花の選定まで実行委員会が行い、通行する区民に安らぎを与える景観づくりにつなげている。</p> <p>また、年1回の視察研修では、花の手入れ等に加え、リサイクル農法についても学び、景観や環境に対する理解を深めている。</p> <p>花に触れる体験を通じて、景観や環境に対する理解を進めるため、一般区民を募集して、実行委員会が講師となり、区役所正面玄関前の花壇の花植え体験を行った。</p>			
実施時期 (開催日/回数等)	通年		参加 人数等			

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>公募の区民が日々、地道に公用地に出向いて維持管理作業を行い、植栽作業で工夫をこらすなどして「花による潤いのあるまちづくり」を推進することができた。また、環境に対する理解を深めるため、視察研修でリサイクル農法に関する取組を学んだ。</p> <p>また、日ごろの維持管理作業での知識を活かし、区役所正面玄関前花壇の花植え体験の講師役を担う事により、知識のフィードバックをする新たな展開が定着している。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	中原区内の魅力発信やまちの活性化を図るため、地域で活動する団体、企業と花植え時の協力について、検討を行っていく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-2	中原区STOP!ヒートアイランド事業	継続	H21	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所	対象者	区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容	環境局	
目的及び内容	<p>中原区はヒートアイランド現象などにより、市内でも夏季の気温が一番高い。地球温暖化防止に向けた取り組みを、広く区民に啓発し区民意識の向上を図ると共に、区民との協働を進め、地域における環境問題対策を進める。</p> <p>緑のカーテン事業 打ち水大作戦 環境ミーティング 環境バスツアーの実施</p>			
予算額	2,824,000(円)	決算額	2,823,008(円)	不用額 992(円)
不用の理由				
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(環境ミーティングの様子)</p>	<p>「緑のカーテン&amp;環境“楽習会”」: 年4回実施                  「打ち水大作戦」: 7会場で実施                  「区民環境ミーティング」: 区役所で100人ワークショップの実施                  「環境バスツアー」: 秋休みを利用し、区内の小学生親子10組で工場見学の実施</p>		
	実施時期 (開催日/回数等)	通年	参加 人数等	

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>区民に気軽に環境問題を考えるきっかけとして、「環境“楽習会”」を企画・実施した。緑のカーテン事業では、21施設・24団体・155人以上が地域で緑のカーテン作りに参加した。また、区民100人が参加し行った、環境ミーティングでは、一人ひとりが行っている、環境対策について話し合いを行い、話し合われた成果として「中原流!エコ作法」を制作、配布した。</p>
---

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	より多くの区民が参加しやすいような、仕組みづくり、場の提供などを検討の上、継続して実施する。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-3	自然エネルギー活用促進事業	新規	平成21年度	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	関連事業局 ・事業内容	環境局	
その他( )						
目的及び内容	中原区では、地球温暖化防止に向けた取り組みとして、中原区 STOP! ヒートアイランド事業を推進している。事業の更なる推進と区民へのPR効果を高めるため、区内の自然エネルギー活用事業を促進している事業者と連携し、風力発電設備を導入する。					
予算額	2,100,000(円)	決算額	2,100,000(円)	不用額	0(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】					
			<p>区が取り組む環境事業のシンボリックな存在を設置することにより、事業の啓発効果を高めることができた。</p> <p>発電した電力の有効活用として、LED照明を活用して区役所正面に設置されている区役所案内看板をリニューアルすることで、看板の視認性を高めることができ、区民サービスの向上を図ることができた。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年3月	参加 人数等			

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>区の環境事業をアピールするシンボルができたことにより、事業の一層の啓発を行っていくことができた。今後も引き続き実施する環境事業において、環境学習の場として、有効活用を図っていくことができる。</p> <p>また、発電した電力を活用して区役所看板にLED照明を導入することにより、夜間の看板の視認性が大幅に向上し、区民サービスの向上が図られた。</p> <p>中原区 STOP! ヒートアイランド事業で指摘されたシンボリックな存在が必要との課題にも即応することができ、22年度以降に同事業を進めていく上でも、大きく寄与していく。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	協働推進事業としては、21年度で一旦終了するが、22年度は別途予算(環境費)により、太陽光発電設備を導入する。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
5 - 1	中原区民総ぐるみスポーツ大会	継続	昭和50年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	中原区民総ぐるみスポーツ大会実施委員会		対象者	区内在住の小学生男女及び成年女性		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )		関連事業局 ・事業内容	なし		
目的及び内容	<p>区民とのパートナーシップで、多くの小学生や大人が参加できる大会を実施することにより、区民相互の親睦を深めるとともに健康で明るく住みやすいまちづくりを推進する。</p> <p>等々力緑地催し物広場において、中原区内の小中学生男子・女子、成年女性の3部門のドッジボール大会と自由参加型のスポーツラリーを開催。種目では、ドッジボール以外にも3種目のスポーツラリーがあり、こちらはゲーム感覚で楽しめるスポーツでドッジボールに参加しない小学生でも自由に参加できるようにしている。</p>					
予算額	750,000(円)	決算額	736,868(円)	不用額	13,132(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p> 		<p>大会では、子供から大人までドッジボールやスポーツラリーを通じて交流を深めることができた。また、運営を行っている諸団体(子ども会役員、青少年指導員、体育指導委員等の方々)同士の交流も深めることができ、親睦にもつながった。</p> <p>大会に参加したチームからも、また参加したいとの声が多く寄せられた。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成21年10月 開催(年1回開催)	参加 人数等	約1,000名 (スポーツラリー含)		

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>昭和50年から続いている歴史ある大会であり、毎年約1,000名の区民が参加する恒例の大会になっている。当日はドッジボールの大会だけでなく、自由参加型のスポーツラリーも好評であり、毎年多くの小学生に参加している。なお、スポーツラリーの参加者は家族連れで来ている方も多く、和やかな雰囲気できれいに楽しんでもらっている点も評価できる。</p> <p>業務委託先である中原区民総ぐるみスポーツ大会実施委員会は、町内会・子ども会・青少年指導員会・体育指導委員会等の地元各種団体で構成される団体であり、基本的にはボランティアのため人件費等がかからず、廉価で大会が運営できている点も評価できる。</p>
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	スポーツラリーについては、地域のスポーツ資源を活用したアメリカンフットボールなどのアトラクションを検討、設置し、普及・啓発を行うとともに経費節減の取組みを推進する。広報については、市政だより、区のHPを始め、地域広報誌への掲載などを行い、新規住民の方にも参加を促していく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
5 - 2	中原区スポーツ振興事業	継続	平成2年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	地域振興課		対象者	主に区内において体育及びスポーツを実施する団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 その他( )	一部委託 全部委託	関連事業局 ・事業内容	なし		
目的及び内容	区民の健康増進と相互の親睦を深めるとともに、スポーツの振興発展を目指し、明るく住み良いまちづくりの推進を図ると認められる行事に対し、中原区長杯を製作・贈呈している。					
予算額	400,000(円)	決算額	225,855(円)	不用額	174,145(円)	
不用の理由	21年度開催予定の大会が経済情勢の影響等により、中止になったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		平成21年度は、計16のスポーツ大会に26個の区長杯を贈呈した。区長杯製作・配布事業は事業開始から19年が経過し、区民にも区長杯事業は浸透してきている。しかしながら、経済情勢の先行きが不透明の中で、一部で地域の方が独自で大会を実施する余裕がないとの理由から、一時的にやむを得ず大会を取りやめたとの報告も受けており昨年より配布数は減っている。 なお、実施団体からは、区長杯を贈呈したことによって大会が盛り上がったとの声を多くいただいている。			
			実施時期 (開催日/回数等)	通年(年20回)	参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
区長杯を贈呈したスポーツ大会などでは、参加者の動機付けとなり区民相互の親睦を深められたとともに大会の活性化を促進したことから、おおむね目標は達成できた。 区内の特定の地域だけではなく、区全体の大会に対して区長杯を贈呈することで、区長杯事業の目的が地域に浸透してきている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	区長杯を利用してもらうための周知方法を検討、実施し、地域のスポーツレクリエーションを一層発展させ、明るく元気あるまちづくりを推進していく。昨年より配布数が減ったとはいえ、区長杯に対するニーズは依然として高く、区長杯を贈呈することにより、各スポーツ行事を活性化することができ、今後も事業を継続していくことは必要だと考える。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
5-3	中原区民多摩川ロードレース「マイペース大会」	継続	昭和48年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	中原区民多摩川ロードレース「マイペース大会」実施委員会		対象者	区内在住の小学生高学年以上の男女		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	関連事業局 ・事業内容	なし	
目的及び内容	多くの区民に親しまれている「ランニング」を通じて、健康ランニングの普及と区民の健康増進を図ることを目的とする。 小学生高学年男女3kmの部、中学生以上5kmの部、中学生以上10kmの部以上の3部門を多摩川ハーフマラソンコースで開催。					
予算額	450,000(円)	決算額	450,000(円)	不用額	0(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】			大会当日は、642名(昨年568名)の区民が参加し、区民の健康増進に資することができた。この大会を目標にしているリピーターも多く、また近年のランニング人気の高まりを受けて、直近3年間の全体の参加者は、毎年約100名ずつ増えており大会は活気に満ち溢れている。		
						
	実施時期 (開催日/回数等)	平成21年12月 実施(年1回実施)	参加 人数等	642名		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>直近3年間の参加者は増加傾向にあり、安全面を含めた運営が困難になる可能性が想定されたため、今年度から参加対象者は区内在住者(区内在勤除く)のみとした。しかしながら、近年のランニング人気の高まりを受けて、参加者は昨年よりも約100名多い642名だった(申込時点では792名)。この数字からもわかるように、今後も必要な事業であり区民の大会に対するニーズは高い。</p> <p>また、近年、健康に対する注目度も高く、その中で健康増進スポーツとして多くの区民に親しまれている「ランニング」を題材としているため、参加者にとって目標としている人も多い。小学生を含め一般参加者も増えていることから、今後も健康スポーツの発展には重要な事業といえる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	参加者は増加傾向にあるため安全を配慮したコース及び種目の選定を検討する必要がある。運営については、町内会・体育指導委員・青少年指導員・子ども会・交通指導員等の協力を得ながら行っており、今後も、これまで同様に各団体の役員の協力を得ながら効率的に運営を行なう。	<b>B</b>

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--